



Newsletter



景気と資産価格はどうつながる？—— 金利・物価とDC運用の基本

物価や金利の変化は、毎日の生活だけでなく、DCの資産価格にもじわっと影響します。今回は、このつながりを少しだけのぞいてみましょう。

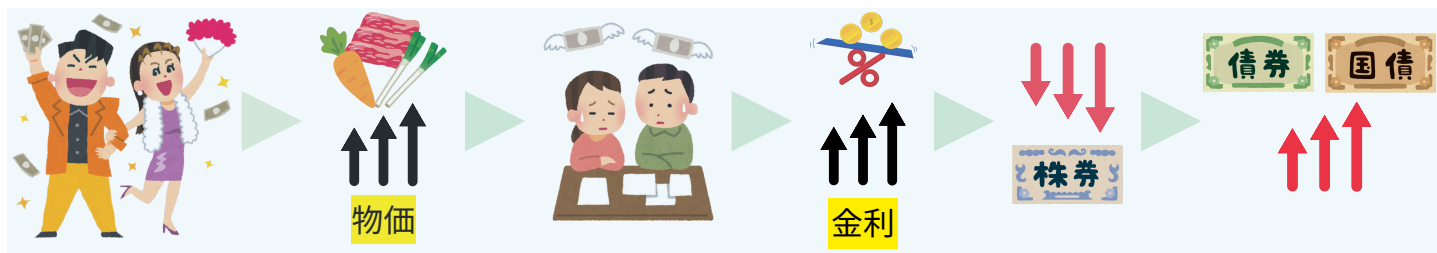
景気がよくなると、企業の売上が伸び、人々の買い物も活発になります。経済全体のお金の動きが大きくなるため、**物価もじわじわ上がり**やすくなります。

ただし、物価が上がり続けると、生活の負担が増えたり、企業の仕入れコストが重くなったりと、“**景気が良いはずなのに暮らしが苦しくなる**”という状態になってしまいます。

そこで国（中央銀行）は、景気の過熱を防ぎ、物価の上昇を落ち着かせるために**金利を引き上げる**ことがあります。

金利が上がると、企業がお金を借りる際の利息も高くなるため、設備投資や新しい事業への挑戦が慎重になりがちです。結果、「利益の伸びが少し鈍るかも」という見方が広がり、**株式への投資も慎重**になる傾向があります。

一方で、金利が高いと**預金や債券の利息が増える**ため、「リスクのある株式より、安全な資産の方が良いかも」という動きが生まれ、株式から預金・債券へ資金が移りやすくなることも、株価が落ち着きやすい理由の一つです。



反対に**景気が弱くなる**と、人々の支出も控えめになり、物価も落ち着きやすくなります。国は景気を下支えするために**金利を下げ**、企業がお金を借りやすい環境をつくりまします。その結果、**企業の活動が回復**しやすくなり、「これから経済が持ち直しそうだ」という期待から、預金や債券に移っていた**資金が株式に戻**ってきて、株価が上向きやすくなるのです。



「仕事も“波”との付き合い方が大切

仕事も、順調なときもあれば、思い通りに進まない時期もあります。それでも、小さな改善を積み重ねれば、仕事の成果はゆっくりと育っていきます。投資も同じで、波に一喜一憂せず、コツコツ積み立てることが未来のゆとりにつながります。

🔔 次回予告—— 次回（1月号）からは、新シリーズ「なるほど！投資のキホン」をスタートします。

第1回は「そもそも株式ってどういう仕組み？」。売り切れはあるの？追加で売られることは？株価はどう決まるの？—— そんな素朴な疑問について、一緒に見ていきたいと思います。

おすすめ！



【乗り遅れた あなたに】確定拠出年金ってそもそも何ですか？

これさえ見れば、納得・安心して始められます！



Click!

